

マキノ病院ニュース

ドクターコーナー



「治す医療」から「治し支える医療」 そして「支え寄り添う医療」を目指して

マキノ病院 院長 森田 豊

新年あけましておめでとうございませう。本年が皆様にとつて幸多き年でありませうとお祈り申し上げます。

さて、これまでの医療は、病気を治すことに主眼を置く「治す医療」が中心でした。現在も新しい治療法が次々に開発され、これまで治療に難渋していた病気が治るようになってきています。このことは非常に素晴らしいことですが、まだすべての病気が治るわけではなく、根治が可能となった病気でも、長く辛い治療を強いられることが多いのも現状です。特に高齢者に「治す医療」を優先しすぎると、かえって患者さんの生活の質(QOL)を大きく損なうことにもなりかねません。目の前の病気を治すことのみにとらわ

れることなく、患者さんにとつて何が最良の医療かを考え、患者さんを「支える医療」、患者さんに「寄り添う医療」が重要と考えています。

急性疾患の肺炎を例にとりますと、肺炎は重症化すれば命に係わることもありませんが、多くは抗菌剤によって根治する病気です。特に若い人は治りも早く、治療が終わればすぐにもとの生活に戻ることができ

ます。しかし、高齢者の場合は、肺炎自体の治りが悪いだけでなく、持病の悪化や安静による足腰の衰え等により、肺炎の治療に専念するだけでは、すぐには元の生活に戻れないこともあります。持病対策や早期のリハビリテーション等、患者さんを総合的に支える医療が当初より必要となります。

また、癌の場合を考えてみますと、癌は早期であれば手術等で根治できる病気ですが、ある程度進行するとその治療は、辛く長期間に及ぶことになりませう。若い人には少しでも根治の可能性があれば積極的に治療に挑戦してもらいたいと思ひますが、高齢者の場合、治る見込みが高くなければ、根治をあきらめ残された時間を癌の治療以外に有効に使うのも一つの選択です。このような選択をされた患者さんには、人生の最後まで高いQOLを維持し充実した生活を送っていた

だけけるよう、癌による肉体的・精神的苦痛を取り除くべく、徹底的に「支え寄り添う医療」を提供する必要があります。癌による苦痛の最も大きなものの一つに癌性疼痛がありませうが、最近では医療用麻薬等

を上手く使うことによって、ほぼ完全に痛みをコントロールできるようになっていませう。また、多くの高齢者は、病気があつても住み慣れた家・地域で最後まで暮らしたいと望んでおられますが、これらの痛みのコントロールは在宅でも可能です。また在宅療養中に熱発や食事がとれなくなつた場合の緊急入院、さらには病院での最期を望まれる方の受け入れ等、病院による支援体制の確立も患者さんの支えになると考えていませう。

診療科のご案内
 内科・外科・小児科・整形外科・皮膚科・神経内科
 泌尿器科・リハビリテーション科・リウマチ科・放射線科
 【救急指定・労災指定】【人間ドック・各種健診】

— 診療受付時間 —
 平日 8:30 ~ 12:00 16:40 ~ 19:00 土曜日 8:30 ~ 12:00
 滋賀県高島市マキノ町新保 1097 TEL 0740-27-0099
 ホムページ <http://www.makino-hosp.or.jp>

昨年7月1日より当院敷地内が全面禁煙になったことをご存知でしょうか？これに併せて当院では禁煙外来を開設いたしました。今まで何度か挑戦したけれどダメだった、もしくは今から挑戦してみたいとお考えの方はぜひ一度相談に来ていただければと思います(初回のみ要予約)。

ご存知のように、タバコは百害あ

『レッツ禁煙！』

内科 山本 博文

す。喫煙者本人がなりやすくなる病気として肺癌が有名ですが、他にも咽頭癌、喉頭癌、食道癌、肝臓癌、胃癌、膵臓癌、膀胱癌、子宮頸癌など全身に癌がでやすくなります。他にも、脳卒中、歯周病、肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患、

心筋梗塞などの虚血性心疾患、加えて糖尿病にもなりやすいとされていませう。妊婦さんの場合には、早産、低出生体重児、胎児発育遅延などの原因になります。さらに深刻なことに、こうしたタバコの害を被る喫煙者本人だけではありませう。他人のタバコの煙を吸わされる受動喫煙者にも害は及びませう。

受動喫煙には、喫煙者が吐き出した煙やタバコの先端から立ち昇る副流煙による二次喫煙だけでなく、タバコの煙や臭いが染み付いた衣服や、カーテン、家具などが

ら有害物質を吸ってしまう二次喫煙も含まれます。厚生労働省の研究班は、受動喫煙だけで年間1万5千人が死亡すると発表していませう。

ところで、禁煙はなぜ難しいのでしょうか？意志が弱いから？それではなく、ニコチン依存症だからです。ニコチンは、脳に作用して快感をもたらすドーパミンという物質を放出します。タバコが美味しいのは、このドーパミンの作用です。タバコを日常的に吸っていると、脳はニコチンがある状態をバランスをとるようになり、ニコチン無しではいられない状態になります。これが身体的依存状態です。イライラ、落ち着かない、集中力の低下、気分が沈むなどの禁断症状を経験されたことは

ないでしょうか？また、習慣として日常生活に組み込まれると、タバコが無いと寂しいという心理的依存状態も起こります。多くの場合、禁煙すると身体的依存は3〜6か月で消えますが、心理的依存は数年にわたつて続くことがありますので油断は禁物です。

あなたは朝起きたらタバコに手が伸びますか？まず一服という方はニコチン依存症です。禁煙を希望される方は当院外科・藤田医師がタバコ卒業のお手伝いをさせていただきます。

今年こそ『レッツ禁煙！』ご家族の喜ぶ顔を想い描いてください。

